



パラソル新聞

<https://www.parasol-gallery.com/>

目次

- 10 月パラソルギャラリー・ミニパラソル展 開催報告 1
- アンケート結果 2
- 北原先生 Q&A 3

- 学生スタッフの声 4
- 学生スタッフの声 5
- 出展作品ご紹介/ミニパラソル展 6
- 千葉駅周辺のまちづくり活動紹介 7
- 謝辞/今年度の活動/記者さんの感想等 8



第22回パラソルギャラリー 好天のもと交流を楽しむ♪

令和5年10月7日と8日の10時〜16時に、千葉駅前大通り
京葉銀行側歩道上に50本のパラソルが並べられた。来場者数は、
今年も両日合わせて1万人を超え、昨年度より増加した。
学生ワークショップも行なわれ、豊かな交流が歩道に広がった。



神谷市長来訪

10月7日14時半から30分、京葉銀行前から中央公園へ向かうルートで、今年も出展者と交流を持ちながら全ての作品を丁寧に鑑賞。

ミニパラソル展も元気に開催

今年度は、青葉の森芸術文化ホール
前、6月18日
には海浜幕張のマルシェにも出展。
ミニパラソル展関連記事: 6と8ページへ。



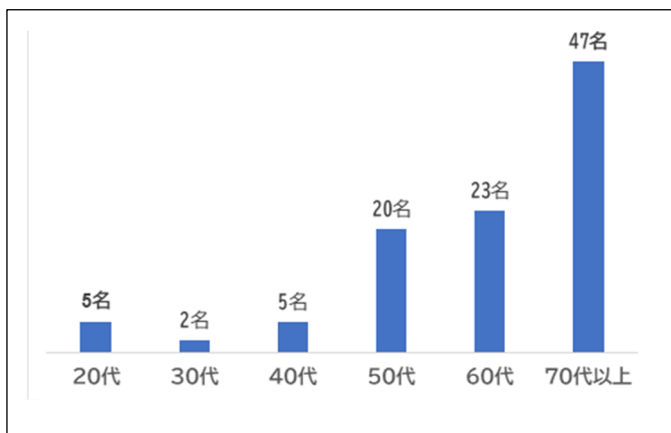
郭東潤パラソルギャラリー実行委員長から

第22回パラソルギャラリーは、2日間で58組の展示者が参加し、手作りの作品が屋外ギャラリーで賑やかに展示されました。晴天に恵まれた両日には、合計11604人の市民が訪れ、幸福な時間を共有しました。この催しは、出展者、来場者、そして実行委員会の市民スタッフの協力によるものです。今後もパラソルギャラリーが千葉の都市文化として一層発展するよう、引き続きご支援をお願いいたします。

パラソルギャラリー2023 アンケート結果

問 基本情報

パラソルギャラリー2023の開催当日、出展者関係者102名に対するアンケートの集計結果をお伝えします。今年は男性が20名、女性が82名でした。年齢別の結果を見ると、各年代からの参加が確認されましたが、特に70代以上の方が47名で多く参加しています。年齢層のバリエーションがあることは好ましい傾向ですが、若い層へのアピールや参加動機の分析が求められます。来年度は特に、若い世代の参加を増やすための工夫が必要です。



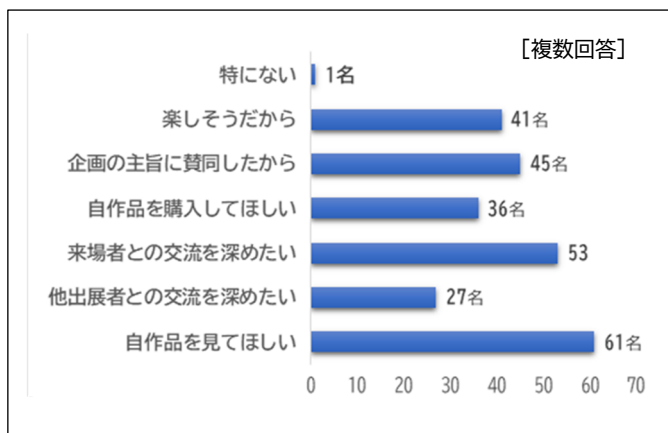
アンケートへのご協力を
ありがとうございました

(アンケートまとめ:郭東潤)



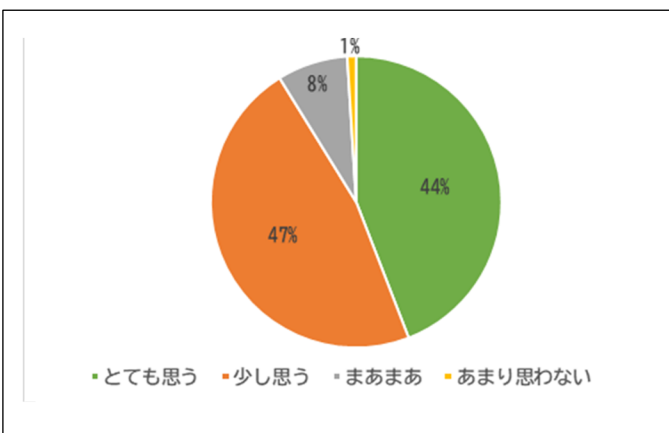
問 出展動機

出展者の動機に関するアンケート結果によれば、自作品を見てほしい61名や来場者との交流を深めたい53名が多くを占めています。これは良い結果ですが、自作品の購入や企画の主旨に賛同したからといった要因も考慮し、来年度のプロモーション戦略に組み込むことが重要です。



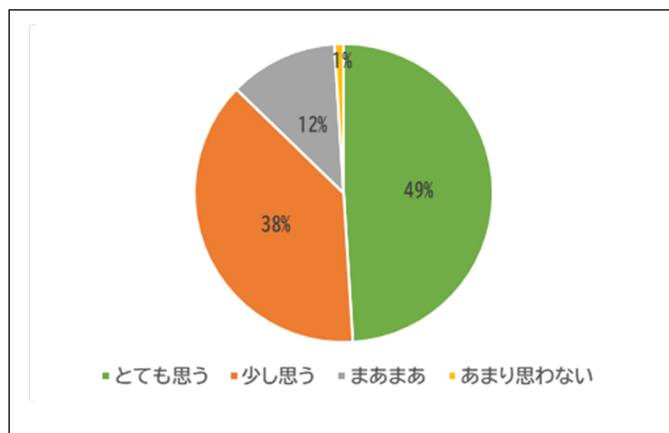
問 賑わいづくりへの貢献

「本活動は街路の賑わいづくりに貢献できたと思いますか」についての回答では、とても思う44%、少し思う47%という結果が得られました。賑わいづくりへの期待が高いことが分かりますが、その中でも「少し思う」が多いため、来年度は更なる賑わいづくりの工夫や参加者との連携を強化することが求められます。



問 来場者との交流

「本活動は来場者との交流を盛んにすることができたと思いますか」に関する回答では、とても思う49%、少し思う38%があります。来場者との交流の充実度は高いと言えますが、今後はさらに交流イベントやアクティビティの拡充を検討し、参加者同士のコミュニケーションを深めることが必要です。



これらの分析から、来年度のイベント計画においては性別バランスの改善、若い世代へのアピール強化、プロモーション戦略の改善、賑わいづくりの工夫、交流イベントの拡充が重要な課題となります。

北原先生 Q & A



初代パラソルギャラリー実行委員長で都市デザインが専門の北原理雄先生に、皆様からの質問に答えて頂くコーナーです。先生よろしく、お願い致します。

パラソルギャラリーは、通りに賑わいと元気をもたらすために開催されていますが、これまで沿道の使い方が素敵だな、と先生が思われた場所は他にどこがありますでしょうか？それはなぜですか？



街を交流の舞台に！

コペンハーゲンにストロイエという通りがあります。都心を南北に貫くメインストリートで、古い建物が残る落ち着いた街並みが魅力的です。1962年に歩行者専用街路になり、いつもたくさんの人で賑わっています。

車優先の時代に「人間のための街づくり」に取り組んだ先進事例をこの目で見てみたい。そう考えて1977年にコペンハーゲンを訪ねました。そこには確かに歩行者が主役の街がありました。でも、どこか物足りない。



ストロイエ (コペンハーゲン) 1977年

そのとき撮った写真を見ると、通りにたくさんの方がいますが、みんな歩いているだけです。秋の終わりの寒い日だったということもありますが、それだけではないようです。



ストロイエ (コペンハーゲン) 1997年

もう一枚の写真は、1997年に同じ場所で撮ったものです。沿道に白いパラソルのオープンカフェがあり、その手前でストリートミュージシャンが演奏しています。

人がたくさんいるだけで街が生き生きするわけではありません。人びとがくつろぎ、視線を交わし、おしゃべりし、音楽に耳を傾ける。人びとのあいだに「交流」が生まれて、はじめて街が輝きます。



ストロイエにオープンカフェが並ぶようになるのは1980年代です。コペンハーゲンの人びとは、人間のための場所ができてから約20年の時間をかけ、それを活かして街を元気にする取り組みを進めたのです。さて、私たちのパラソルギャラリーも、ストロイエに負けず順調に「交流」をはぐくんできていると思いませんか？



パラソルギャラリー-2023年

学生スタッフの声 「パラソルギャラリーに参加して」

学生スタッフ5名に感想を聞きました 広報部 修士1年 藤井智祥

来年にも活かしたい

3年 金澤愛奈

今回初めて運営側として地域の皆様と共に1つのプロジェクトを実施させていただき、企画段階のように上手くいかない部分もありましたが、無事に最後までやり遂げることができ、安心していきます。1つのパラソルの下で出展者さんやお客さんのコミュニケーションから新たな繋がりが生まれている様子は、見ていて私も自身も嬉しくなりました。

反省点も多々ありますので、来年以降も続いていくパラソルギャラリーに生かせればと思っています。貴重な機会を頂きまして、本当にありがとうございました！

多世代交流の場として

3年 山岸壮太

親子三代でイベントに来てくださる方が多く、大変貴重なイベントでした！私たちの折り紙でパラソルを作るワークショップも多くの方に参加していただきとても嬉しかったです！

まちづくりの面白さ

3年 金澤篤

千葉駅前の大通りの印象は？と聞かれると、銀行やオフィスビルが立ち並び、サラリーマンとたくさんの方の駐輪自転車が並んでいるといった感じでした。ですが、今回のパラソルギャラリーというイベントを通して、パラソルに沿って人々が足を止め、出展者と参加者がハンドメイド作品を通じて交流している様子を運営という立場から見ただけで、まちづくりの面白さを再認識することが出来た気がします。

活動が広がるきっかけに

修士1年 山田楓子

学生ワークショップを通じ、出展者の方々や街行く人々と交流できました。特に、子どもたちの素敵な色選びのセンスや、楽しんで折ってくれた様子が印象に残っています。個人としても幼少期から折り紙が好きだったので、クラフトや手工芸の楽しさ、ひいてはパラソルの活動が広がるきっかけになっていたら嬉しいです。

千葉を盛り上げたい

修士1年 藤井智祥

昨年パラソルギャラリーに初めて訪れ、また卒業論文では千葉駅周辺の商店街等にお話を伺ったこともきっかけで千葉駅を盛り上げたいと思い、この度実行委員に参加しました。街で実際に行うプロジェクトは初めてで地域の方になじめるか心配していましたが、会議初日から温かく迎えていただき楽しみながら企画や準備を行いました。また広報としてポスターデザイン検討やプレスリリース、パラソル新聞の執筆にも関わらせていただき、とても良い経験となりました。当日は多くの方にご来場いただき、出展者の方の作品を通して交流している様子を拝見し、今後もハンドメイドやパラソルギャラリーに興味をもっていただく人を増やしていきたいなど実感しました。

ポスターデザインについて

今年度のポスターはパラソルの下の交流を主題にデザインしました。遠くから見てパラソルは目を引きますが、初めてパラソルギャラリーを訪れる方にも「ハンドメイド作品を通じた交流ができること」を知ってもらいたいという想いで作製しました。これまで開催された時の写真や毎回の会議でいただいた市民の方の意見をもとに改良を重ね、完成しました。



学生ワークショップ



案内ハガキ・ポスターのデザイン

開催案内ハガキ情報

500枚印刷
100円/5枚1組で販売
(7/25注文 8月の会議から配布)

ポスター情報

A3サイズ
80枚印刷
(8/21注文 9月2週目から掲示・配布)

本運動の一部はYS市街コミュニティ祭の企画を受けで開催されています
主催:パラソルギャラリー実行委員会、後援:千葉市、パラソルギャラリー事務局
協賛:千葉駅周辺地区活性化推進協議会、Chiba Social Project実行委員会
協力:千葉市公民館芸術文化センター、千葉大学芸術情報デザイン情報学系5555パラソルギャラリー学生部

学生企画について

学生主体の出展として、折り紙でパラソルを作るワークショップを実施しました。企画段階では折り紙建築や建築模型づくり体験等、学生の専攻を活かした発案もありましたが、小さなお子さんから高齢の方も気軽に楽しめて、思い出の記念として皆さんの自宅にパラソルを持ち帰っていただきたいという想いで本企画が決定しました。パラソル会議では物づくりが大好きな市民の方から作り方を複数教わり企画検討にご協力いただきました。その後、難易度の異なる作り方を検討し、当日は前年度までパラソルギャラリーに出展されていた片岡さんにもワークショップ運営にご協力いただきました。



幅広い世代の方との交流

2種類の作り方を用意し、2日間で約100名の方にご参加いただきました。下記の折り方を見て皆さんもご自宅で折ってみてください！

最後に

建築や都市を学ぶ私たちにとってパラソルギャラリーは実際にまちづくりに関われる貴重な機会でした。準備期間や当日は多くの実行委員・参加者にご協力いただき無事にイベントを開催できたことに感謝いたします。また、お忙しい中で飲み物やお菓子等の差し入れをお気遣いいただき、非常に嬉しかったです。次年度も学生ならではの意見を出し、皆様より良いものを創り上げていきたいです。どうぞよろしくお願いたします。

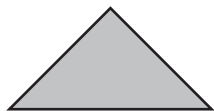
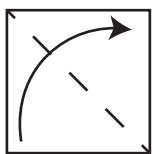


片岡さん、後藤さんの作品も展示しました

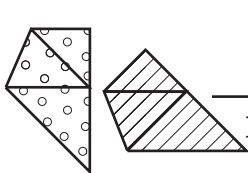
学生企画

パラソルをつくろう！

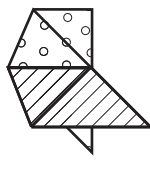
折り紙ワークショップは千葉大学生によって企画された参加型活動であり、営利目的で行われたものではありません。なお、折り図は動画 (<https://www.youtube.com/watch?v=j8tjQc-lAWw>) を参照し作製しました。



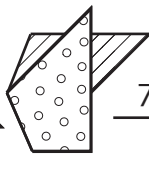
大・小で各7枚同じものを折る (計14枚)



同じものを
重ね合わせる

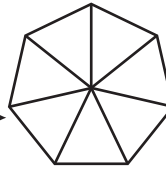


内側



外側

7枚全て重ねる



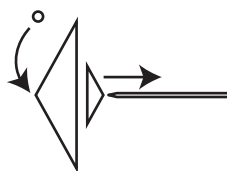
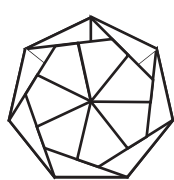
内側



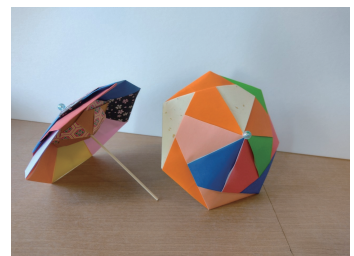
外側



外側の紙の先端を折り込む



傘の大・小と竹串、ビーズを
組み合わせて完成



出展作品紹介

交流のきっかけをつくり笑顔を広げる手作りの出展作品は、街を輝かせる大切な担い手です。作品を作るようになったきっかけ、出展への思い等を伺いました。10月に笑顔のお地蔵さんを探して下さい。少しずつ皆さまの作品をご紹介したいと思います。作品を見る楽しみが増え交流の輪が広がりますように。

「お地蔵さん」 宮寺忠男（宮忠工房）



笑っているうちに元気になれる！
のんびり、のんびり 生きようヨ！

東京生まれで2歳の時に父母の出生地である埼玉県飯能へ疎開して、小学校2年生まで田舎暮らしをしました。その時に田んぼの畦道にお地蔵さんがみすばらしい小屋の中にじっと立っていました。

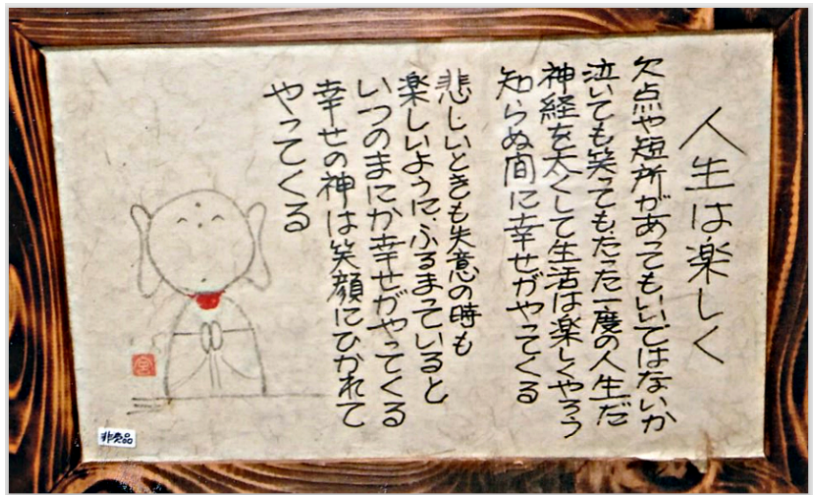
60歳になったある日、そのお地蔵さんの顔が浮かび、まず5Bの鉛筆で描き、更に墨でそれをハガキへ、又このハガキを入れる額を手作りするようになりました。

この手作り額が、たいよう保育園の園長さんのところへ届き、卒業証



2023/06/14

書を額の中に入れ一人一人にお渡しする事になっており、毎年20〜30枚を13年間作り続けています。今年で81歳になりますが、いのはな公園内にあります茶店「いのはな亭」にてアルバイトをしています。裏が茶室になっており、月に一回正式な茶会が催され、たくさんのお客様が来られて大きな額の制作を注文されたり、お茶の先生は椅子とか踏み台であるとか、中には茶道具の一つである結界等を注文されたりと、楽しく制作をさせていただいております。

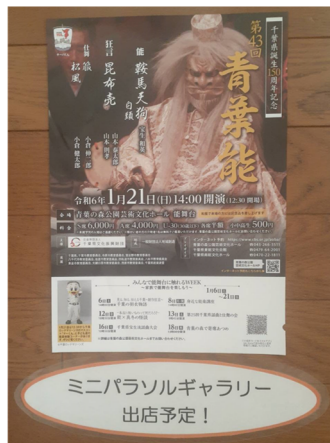


パラソルギャラリーに初めて参加させていただきました。女性客がすごく多いのが第一印象でした。展示品は、掛けておくで見にくいのか、テーブルの上の作品を見る人が多く感じました。来年は、客層と展示方法を考え、立ち止まってもらう工夫を凝らした作品を用意して、参加したいと思います。出展中は、隣同士で会話したり、買いつこしたりして楽しく過ごしました。

ミニパラソル展（12月現在の状況）

今年度は、5日間で36基のパラソルの花が開きました。令和5年は、1/8、2/12、6/18、7/22、12/8開催。令和6年は3月までに、1/6、1/21、2/24開催予定。

来場者にも本番のパラソルギャラリーやミニパラソル展を全員でアピールしています。看板を数カ所に設置、次回開催予告案内など。もっと宣伝したいです（ゴオン雅己）



10月のパラソルギャラリー会場入り口に掲示した感染対策の看板。関係者全員の体調チェック表提出と体温測定を行なった。問題発生の声無し。

ご来場の皆さまへ お願い

みんなで安全・安心に

大声は感染のもと
様々な感染症対策に手の消毒を

パラソルギャラリー実行委員会
パラソルギャラリーの感染症拡大防止への取り組み

パラソルとパラソルの
間隔を十分に空けて設置

マスクを状況に応じて使用

出展者全員の健康チェック
検温を実施

アルコール消毒液を設置

県、市の感染症情報を
チェックし出展者で共有

千葉駅周辺のまちづくり活動紹介

CHIBA SDGs パークレットプロジェクト

昨年パラソルギャラリー実行委員会と協力団体になった CHIBA SDGs パークレットプロジェクト(CSP)の活動を取材させて頂きました。

10月27日(金)にCSPが千葉駅前京葉銀行側歩道で6回目のイベントを開催するのに合わせて、イベントを司る京葉銀行の地域振興グループ地方創生担当リーダーの篠塚武仁さんと同グループの農業経営アドバイザーの小田中浩司さんに、また出店者、来場者の方々にも、お話を伺いました。

きっかけは規格外野菜

プロジェクトは、規格外野菜を販売してみませんか、との話しを京葉銀行さんから鳥海さん(左記)へ提案したことから始まった。

京葉銀行さんが中心になり、台風被害を受けた千葉の農家さんから規格外野菜を買い取った「一般社団法人野菜がつくる未来のカタチ」代表理事の鳥海さん、千葉県内を中心にイタリアンレストランを展開する「株式会社レプロコ」さん、千葉駅前に事務所のある「塚本総業株式会社千葉支社」さんと共に、立ち上げた。

地域の人を巻き込む

会場は、千葉駅前大通りに面した京葉銀行敷地内駐車場から始め、その後、歩行者空間を活用できる歩道へと拡大。

イベントの趣旨・目的は、定期的な開催を通じ、食品ロスや駅前大通り活性化等の課題に、地域の人びとを巻き込んで貢献すること。

地域の食材を

出店するのは、SDGsに取り組み、地域貢献への強い想いがあるお店。新鮮な規格外野菜のお店の他に、千葉市内のどんぐりで作ったビスケットや お米のアイスクリーム、有機のレモネードにサトウキビのストローを使用など、こだわりの商品を売るお店が歩道に並んでいた。夕方5時を過ぎると、食事のできるお店がさらに増えたと、通行量が一番多い金曜日に開催される。「SDGsのイベントは少ないので参加させてもらってありがたいです」と出店者にも好評だった。小田中さんは、このイベント



ドラム缶をリサイクルした機で軽食をとる若者達



リード巻き、ドラム缶などをリサイクルした机と椅子



土作り、味にこだわる。有機 JAS 認定をうけている八街からの農業法人の生産・販売者



パレットテラスを利用する来場者

※ パークレットとは

Park(公園)+let(「小さな」を表す接尾語)。車道の一部を転用し、人のための空間を作ったのが始まり。仮設が特徴。コストや立地に合わせたデザインのため、アクティビティが広がり、魅力的な道になる。

会場をリサイクル商品で

会場のセッティングは、パラソルギャラリーと同様、力仕事のようだ。会場にはパラソルの他に、ドラム缶やリード巻きなどの粗大ゴミを、グリーンエコさんがリサイクル商品にしたおしゃれな机や椅子が並び、来場者に利用されていた。京葉銀行80周年記念を機に作

魅力的なパレットテラス

られたウッドデッキ(パレットテラス)で飲食していた男性は、「たまにこの通りを通りかかった。お店に入ると、いろいろと考えないといけないけれど、ここなら好きなのでいられる」とのことだった。無農薬コーヒー出店者は、「今回はパレットテラスの横になってラッキーです!通りのサラリーマンはコーヒーの需要が多く、すぐ横のテラスに座ってちよつと飲めるようで、とても良いです」と話した。

出店者は20代から50代前後が多く、結びつきの場にもなっているとのことだった。イベントからの派生活動も広がっている。今後は、それぞれの活動が広がっていくことを、篠塚さんは願っていた。

謝辞

今年度は、YS 市庭コミュニティ財団、千葉駅前大通り景観形成推進協議会、パラソルギャラリー後援会から開催活動資金のご支援を受けました。

一同、心より感謝申し上げます。

今年度の活動

パラソル運営会議

- ・1月から月1回開催。京葉銀行との話し合いの報告や、沿道に置かれるシェアサイクルについての千葉市との意見交換も行なわれた。
- ・3月以降は、出展者募集要項等の確認が始まり、6月に学生スタッフも加わり活動が深まった。

パラソルの配置

感染予防のため、4m間隔で京葉銀行前から千葉ビル前まで一列に配置。学生ワークシヨップのブースには椅子が多く、ゆつくり休め学生さんと話しもできたという好評だった。



ホームページ(HP)

出展作品、10月の開催風景写真、感染予防対策、1年間の運営会議の要旨、開催記事掲載のメディア等詳細はHPに掲載。

12月のミニパラソル展は、九重幼稚園のお遊戯会の日に合わせて開催。折り紙のワークシヨップも行なわれ、出展者は小さなお子さんから元気をもらったと嬉しそうだった。

12月の反省会では、活発な意見交換が行なわれた。

- ・当日は、出展内容のわかる看板(受付に一覧表・各パラソルに看板)があると良いという意見は多かった。
- ・開催日を早く周知させること、なぜ開催しているのかを周知させることが大切、などの意見が出た。

忘年会

出展者同士の情報交換の場やアイデアを出し合う場にもなった。



「地域新聞」から取材を受けて

ベテラン記者さんが取材中、広報部員の話聞きながら述べた感想が大変参考になりました。

左記にその一部をご紹介します。

記者さんの感想

パラソルギャラリーはお祭りのよう、フリマとは全然違うんですね、これは重要ですね。

・とても意識が高いイベントだと思います。デザインコードもあるのですね。

・フリマは、声をかけたりしたら買わないといけない雰囲気だけれど、パラソルギャラリーはゆつくり見て、いろいろ話しかけて良いですね！

・高齢の出展者が多いのは驚きでした。ホームページの写真を見て、若い人達がおしゃれに作品を展示しているのかと思っていました。

お知らせ

・あの歩道が、今後集まるための場所になっていけば、そういう用途になればいいですね。

・パルコも無くなって、普段あの通りを歩くと、なんのために歩いているのかと・・・

・地域新聞は、30代40代の子育て世代のママが一番よく見ます。行ってみようかなと思う記事にしたい。

千葉市の浅野さんと取り組んでいるリノベーションまちづくりから生まれたプロジェクトのひとつ「裏ちばみんなの広場ミッケ」(新宿、新町、新田町あたりで活動)という団体に、今後の連携期待も込め、パラソル14本を貸し出しています。パラソル破損の場合は現物補償が条件です。

後援会への御寄付・会費納入のご協力を、ありがとうございます。開催当日の学生スタッフ用お弁当等を出すことができました。3月の会議で会計報告致します。今後ともよろしくお願ひ申し上げます。

編集後記

今年度は、作品をゆつくり見て会話を楽しむ来場者が多いと感じました。メディア等の力は大きいと改めて思いました。来年度も出展者の皆さまと一緒に、情報発信を頑張りたいと思います。(広報部 奥平)



撤収作業
ありがとうございました。